

教員活動状況報告書

提出日： 令和 6 年 3 月 1 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 榎澤共生 職位： 助教

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

動物衛生学分野の教員として、生産獣医療に関わる分野の教育を担当している。

| 科目名 | 学科・専攻 | 必，選， 自 | 配当年次 | 受講者数 |
|----------|-------|-----------|------|------|
| 家畜衛生学実習 | 獣医学科 | 必 | 4 | 149 |
| 産業動物臨床実習 | 獣医学科 | 必 | 5 | 135 |
| 卒業研究 | 獣医学科 | 必 | 6 | 6 |

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

動物衛生学は産業動物をはじめとした動物の疾病予防と健康増進を図る応用獣医学であるが、社会情勢や疾病の多様化、飼養形態の変遷などにより、課題は常に変化している。ここ数年は、海外飼料の不作や新型コロナウイルス感染症、ウクライナの情勢不安などを背景に飼料価格や燃料費等、各種経営費用が高騰しており、価格安定の目途はつかず、多くの畜産農家が離農せざるを得なくなる現状が続いている。このことは、歴史的に見ても戦後日本において大きく成長してきた畜産の大きな変換点になると思われる。常に変化する情勢の中で、安全な食料の安定供給に畜産が果たす役割は大きく、そこで獣医師に求められる役割も今後さらに増えていくと考える。複合的な問題の解決には基礎的な動物衛生学の概念、方法論の理解がベースとして重要となるので、大学教育において動物衛生学の考え方の根本である疾病制御や飼養衛生についてしっかりと学ぶことは、社会のニーズに応える獣医師の育成に必要不可欠である。動物衛生学の基礎的な内容の理解と同様に、学びのその先に畜産現場や消費者、という具体的なイメージを学生のうちから意識することも重要であるとする。また、産業動物臨床の教育においては、実際の臨床症例では一症例として同じ症例はなく、教科書通りではないことも多いので、個々の症例から学び、その経験を積み重ねていくことの重要性を伝えることを目指す。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

基礎的な内容の理解を最も重視する。同時に、基礎的な知識が実社会でどのように生かされるかイメージできるように、関連した内容の現場での実情を伝える。実習では重要なテーマの記憶定着を図るため、学内飼養施設を使用して実際に測定等を行う。また、国家試験合格も重要な到達目標であるので、過去に出題された問題の解説も併せて行う。産業動物臨床の教育においては、正解が一つではないので、学生が自ら考える過程を尊重し、その過程をファシリテートするような教育を目指す。具体的には、鑑別診断を過不足なく引き出せるよう、必要となる関連知識の学習を促す。

アクティブラーニングについての取組

レポート課題、グループディスカッション、口頭試問の実施。

ICTの教育への活用

學理を利用した小テスト、レポートの提出。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字）） 現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

- ①教育（授業，実習）の創意工夫（B）
- ②学生の理解度の把握（A）
- ③学生の自学自習を促すための工夫（B）
- ④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）
- ⑤双方向授業への工夫（B）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

レポート課題や口頭試問、また学生からの質問内容を通して学生の理解度を把握することができたので、次年度以降は理解の難しい内容をより重点的に教育できるよう工夫する必要がある。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V学科，M学科の教員の方のみ記載してください。）

過去に出題のあった分野とその関連分野の解説を行った。また実習試験の問題形式は国家試験を想定した五者択一形式とした。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。 （担当初年度のため実績なし）

② ①の結果はどうでしたか。 （担当初年度のため実績なし）

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。 （担当初年度のため実績なし）

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。 （参考となる取組については，学内で共有させていただく予定です。）

基礎的な学習内容の修得が成績向上に直結すると考えるので，内容を十分に理解することができるような教育を目指す。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価 学生の卒論提出、学会発表。

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字）） 参加している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

私自身が獣医学教育を受けていた時代から10年以上が経過しているので、現在の獣医学教育に求められていることについて理解することから始める必要がある。獣医学教育の全体像を理解したうえで、担当分野である動物衛生学の位置づけ、その教育上の重要性をしっかりと把握する。学生に対しては、なぜ基礎的な学習内容の理解が不可欠であるのか、その先の応用例（実例）も併せて伝え、実社会をイメージしながら学習できるような講義、実習を目標とする。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。
シラバス，學理，FD 研修会